

平成23年度 エネルギー科学研究科 公開講座

新世代のエネルギー源とエネルギー環境

1. 未来社会を拓く“バイオマス”

教授 坂 志朗

東日本大震災によって被災した福島原発の原子炉が今なお深刻な状況にあり、今後の行方が憂慮される中、原子力に依存しているわが国のエネルギー事情を見直すことが喫緊の課題となっています。このような状況のもと、再生可能なエネルギーのさらなる利活用が求められています。そこで、本講演では、持続可能な社会の実現に向けて、未来社会を拓く“バイオマス”と題してバイオマスの役割と機能、さらにはその可能性について考えてみたいと思います。同時に、バイオマスから誘導されるバイオ燃料、特にガソリンや軽油の代替としてのバイオエタノールやバイオディーゼルについてのわが国の現状と将来展望についてお話しします。

2. 超電導技術が拓く新しいエネルギーインフラ

教授 白井 康之

従来、主に温室効果ガス削減をめざして進められてきた再生可能エネルギー源の研究開発は、東日本大震災に伴うわが国のエネルギー政策の見直しのもと、重要度をさらに増しています。しかし、これらの再生可能エネルギーを変換・輸送・分配し、われわれが利用する形にするための電力システムをはじめとするエネルギーインフラについては、多くが語られていません。分散的に配置され、間欠的な出力のものが多いたる再生可能エネルギーの大規模導入には、エネルギーインフラのパラダイムシフトが求められているのです。そのなかで、超電導を応用したエネルギー技術は、ブレークスルーを可能とする重要技術と位置づけられています。本講演では、電力システムの現状を簡単に紹介し、超電導技術が拓くエネルギーインフラの将来についてお話しします。

日時：11月5日（土） 13：00～16：00
（15：30から30分間程度、講師を囲む意見交換会を予定）

場所：京都大学工学部 2号館201講義室

- 定員：100名（先着順に受付け、定員になり次第、締め切ります）
- 受講料：無料
- 自家用車でのご来場は、ご遠慮ください。

（お問い合わせ先）
〒606-8501 京都市左京区吉田本町
京都大学エネルギー科学研究科学術・管理掛
TEL：075-753-4744
FAX：075-753-4745